

防犯ボランティアリーダー養成講座

(平成29年度 4回目) 11月30日

4回目の講座

講師: 東洋大学 教授 桐生正幸 氏
内容: 犯罪者プロファイリングを用いた防犯活動
～犯罪者の行動を読む～

講師の紹介

講師の専門は、犯罪心理学、犯罪者プロファイリングなどで、テレビのニュース番組への出演や、犯罪者プロファイリングのドラマ監修、新聞での事件解説等でも活躍されています。

講座の内容



- 日本の刑法犯認知件数は年々減少しているが、子どもや女性に対する性犯罪は減少していない。どんな犯罪から守るのかを想定する必要がある。
- 人の行動はランダムではない。何らかの規則性を見つけることにより、犯罪者の行動を推定するのがプロファイリングの手法である。
- 連続発生事件の場合、最も距離の離れた犯行地間を直径とする円内に、犯人の居住地がある。(地理的プロファイリング)
直径が1km未満であれば、ほぼ100%の確率で当たる。
- 犯罪の「転移」: 防犯活動により、その地域から犯罪者を追い出して犯罪を減らすと、その影響により隣接する地域で犯罪が増加する。

○ 防犯におけるリスク評価とリスク認知

- ・ リスク: 犯罪発生の可能性(場所、時間)
- ・ リスク評価: 専門家が知識や情報に基づいて、被害の大きさや発生の確率等について客観的に判断すること。
- ・ リスク認知: 一般市民が、直感によりリスクを判断すること。非日常的な重要事件が発生すると、必要以上に大きなリスクと判断してしまう。
リスク認知に陥ってはならない。
- ・ リスク評価とリスク認知の違いにより、犯罪が予想される場所と、実際に発生している場所にはズレが生じる。
- ・ リスク認知により、必要以上の不安感を煽るおそれがある。

- 楽しい防犯教育で必要以上の恐怖心をなくしたり、地域交流を深めることにより、悪い人もいるが、それ以上に良い人が身の回りにたくさんいることを、子ども達が理解できる。



当日は、愛知県警察本部生活安全総務課個別防犯対策係が、「住宅対象侵入盗対策」や「自動車関連窃盗対策」についての講義も行いました。